



**2021年度 講演会のお知らせ**  
**東京西の森歯科衛生士専門学校**

**同窓会 《アイリス会》**

**Web 開催**

**日時： 2021年 6月 27日（日） 10:30~12:00**

**当日受付開始： 10:00~ \* 先着 100名**

**講師：日本歯科大学教授**

**口腔リハビリテーション多摩クリニック院長 菊谷 武 先生**

**演題： くちはどう老い、歯科衛生士はどう対応するのか？**

**L I V E 配信**

希望者はアイリス会メールアドレスに 期生 氏名 をお送りください。

後日（5/10~6/18）、ZOOMのURL を返信いたします。

尚、許容人数の上限があり、当日先着 100名までとさせていただきます。

何卒ご了承ください。

\*同窓会ホームページをご覧ください

**皆様のご参加をお待ちしております！！**



# くちはどう老い、歯科衛生士はどう対応するのか？



日本歯科大学教授

口腔リハビリテーション多摩クリニック院長 菊谷 武 先生

8020 運動も功を奏し、高齢者の現在歯数は増加を示し達成者は 5 割を超えました。しかし、依然咀嚼機能を低下した者の数は増え続けています。その増加は人口の高齢化に伴う身体機能低下、認知機能低下を有する者の増加と無縁ではありません。咀嚼機能は、咬合支持の存在だけでなく、口腔の運動機能にも大きな影響を受けます。舌の筋力は加齢により低下します。さらに、舌の運動制御にも乱れを生じます。これまで、これらが関与する咀嚼障害いわば、運動障害性咀嚼障害の診断をすることなく、高齢者に見られるすべての咀嚼障害を咬合改善のみで対応しようとしてきたのがこれまでの歯科医療でした。今般、保険導入された口腔機能低下症の診断ツールである舌圧は筋力の低下の診断が可能で、ディアドコキネシスは運動制御系の乱れを診断可能です。そして、口腔機能低下による生活の質の低下をも評価の一部に取り入れています。これらは、高齢者の訴える咀嚼障害の原因を明らかにすることが可能となったことを示し、生活機能への影響も明らかにすることができます。歯科衛生士は、この運動障害性咀嚼障害の検査、管理を担うことが可能で、8020 達成時代の高齢者の QOL を守る担い手になるのです。

**講師：** きくたに たけし  
菊谷 武  
日本歯科大学 教授  
口腔リハビリテーション多摩クリニック 院長  
大学院生命歯学研究科 臨床口腔機能学



**経歴：** 1988年 日本歯科大学歯学部卒業  
2001年10月より 附属病院 口腔介護・リハビリテーションセンター センター長  
2005年4月より助教授  
2010年4月 教授  
2010年6月 大学院生命歯学研究科臨床口腔機能学教授  
2012年1月 東京医科大学兼任教授  
2012年10月 口腔リハビリテーション多摩クリニック 院長

東京医科大学兼任教授 広島大学客員教授  
岡山大学、北海道大学、日本大学松戸歯学部、 非常勤講師

平成26～28年度厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）「地域包括ケアにおける摂食嚥下および栄養支援のための評価ツールの開発とその有用性に関する検討」  
主任研究者

#### 著書

『あなたの老いは舌から始まる』NHK出版  
『ミールラウンド&カンファレンス』医歯薬出版  
『チェサイドオーラルフレイルの診かた』医歯薬出版  
『絵で見てわかるー認知症「食事の困った！」に答えます』女子栄養大学出版  
『絵で見てわかるー入れ歯のお悩み解決』女子栄養大学出版  
『食べる介護がまるごとわかる本』メディカ出版  
『高齢者の口腔機能評価 NAVI』医歯薬出版  
『基礎から学ぶ口腔ケア』学研  
『図解 介護のための口腔ケア』講談社